

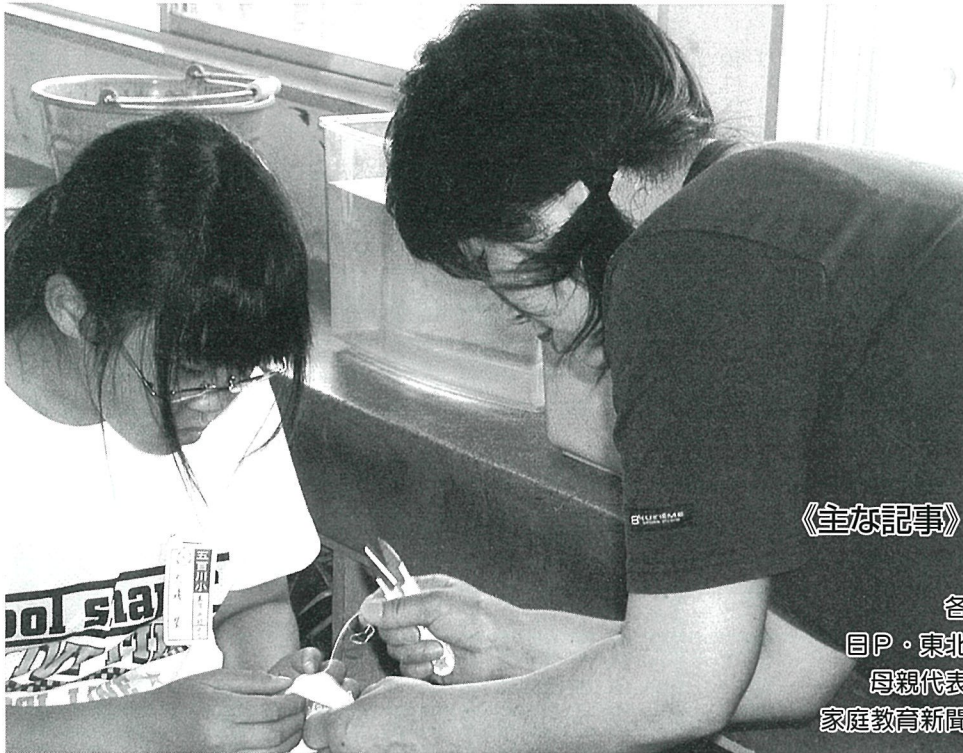
福島県PTA連合会会報
第65号_H16.12.15

P T A ふ く し ま

第 65 号

福島県 P T A 連合会
編 集 / 調 査 広 報 委 員 会
印 刷 / 泉 印 刷 所

親子ふれあい学習 (家庭科の学習から)



【写真提供
本宮町立五百川小学校】

5年生の家庭科の学習
に保護者がゲストティ
ーチャーとして関わっ
ている様子

《主な記事》

- 須賀川大会参加記 P 2～3
- 各種受賞団体等紹介 P 4～5
- 目P・東北P研究大会参加記 P 4
- 母親代表者懇談会概要報告 P 5
- 家庭教育新聞社長賞を受賞して P 5

須賀川大会をふりかえって



須賀川大会実行委員長

水野 武 和

県内各地より、二千三百余名の
会員の皆様をお迎えして、第五十
三回福島県 P T A 研究大会須賀川
大会が、盛会に終了できました事
は、会員皆様の深いご理解と、あ
たたかいご支援とご協力の賜もの
と、実行委員を代表して心より感
謝と御礼を申し上げます。

今大会では、「新しい時代を担う
子供たちの自立と共生を育む P T
A 活動」主題に掲げ、新時代にふさ
わしい子供たちの自立と共生を育
む、思いやりの心や感謝する心、自
立心や協調性など、豊かな心の育
成につながるものがあります。本大
会を通して、子供たちの夢の実現
と未来につながる P T A 活動の展
開を基本として開催いたしました。

大会初日、全大会では芥川賞受
賞作家玄侑宗久先生をお迎えし
て、記念講演「信じる力」の講演
をいただきました。

今の時代に大切な信じる力とは
何かを、私たち会員も考えさせら
れるすばらしい講演内容ではなか
ったかと思えます。

また、二日目は六つのテーマに
分かれて分科会が行われました。
今大会からのこのころみであります
パネルディスカッションは多くの会
員が自由に意見を出し合えて情報
交換ができ、また、全会員が参加で
き意見が出せるように試みました。

会員の多くの方々からのアンケ
ートの結果からは、「パネリストの
話が参考になった」とか、「まとめ方
がよかった」また「時間がもつとほ
しい」「人数が多すぎる」という意見
もありました。提言方式については
昨年同様「グループ討議の時間が
足りない」が、参加者のアンケート
に多くありました。今大会の分科
会に於いては、会員の意識がとく
に高く、グループでの熱心な討議
が行われ、申込み会員百%近い分
科会参加があったことは、実行委
員長として大変感激しております。

須賀川大会を通して、私自身多
くの方々の温かいご支援や、子供
達の素直な心に触れられた事をと
ても幸せに感じました。

最後に、各関係機関に多大なる
御協力を戴きまして誠にありがと
うございました。

県P連研究大会に参加して

◆第一分科会 組織運営

安達P連会長

内藤 徳 夫

第一分科会（組織運営）は、「諸機関や団体と積極的に連携した活動を推進しよう」を研究テーマに、パネルディスカッション方式による分科会を行いました。須賀川アリーナのメインアリーナに約六百名の会員が集い、各パネリストの活動事例の報告や苦労話に熱心に聞き入りました。また、参加者とパネリストとの意見交換も積極的に行われ、有意義な分科会となりました。

特に、小規模校の弱点（会員数が少ない）を逆に生かしての全員が役員、地域に密着したPTA活動を実践している福島市立東湯野小学校の事例や、活動の内容を毎年記録冊子にまとめ、事業の成果と反省語録を活字として残している大越町立上大越小学校の事例は、多くの参加者から質問が寄せられるなど、興味ある事例の紹介で会場が盛り上がりました。

研究協議の三つの視点「会員の意識向上と活動の活性化」「地域と



の連携強化」「ニーズに対応する工夫と改善」は、単位PTA活動をより充実したものにするための永遠のテーマでもあります。小規模校・大規模校、都市部の学校・農村部の学校など、PTAの形は様々ですが、家庭と学校・地域と学校、そして子どもたちを中心に保護者と先生、そして地域の人々との連携が、より充実したPTA活動への近道ではないかと今回の分科会に参加し改めて感じました。

最後に、第一分科会の運営にあたられました白方小学校PTA会長はじめ多くの係員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。第一分科会の報告といたします。

◆第二分科会 研修活動

耶麻郡P連会長

小原 利 夫

「求められている研修内容を共有して活動を推進しよう」をテーマに第二分科会は始まりました。まず伊達郡月館中学校PTA会長の佐藤さんと、耶麻郡山都第三小学校PTA会長の渡部さんの二人の提言がありその後、十のグルー

第三分科会は、『子どもたちの「生きる力」を育む活動を推進しよう』のテーマのもと、各パネリストから活発な提言がありました。

小規模校においては、過疎化に伴う世帯数の減少や少子化の影響により、円滑なPTA運営が困難となった中、各地域の事情にあったユニークな事例が紹介されました。中でも川俣町立山木屋小

プに分かれて話し合いがもたれました。

月館中学校の佐藤さんの話では、生徒数百三十七名と中学校にしては小規模校ではあるがPTA活動に参加する会員の方々が少ない現状であり、これからのPTA活動としては会員一人一人の参加意欲をどう図るかが課題だと話されましたが、どの学校でも持っている問題だと思いました。しかし山都第三小学校の渡部さんの話ではどんな活動をする時も、ほぼ100%の会員の方の出席と聞き、少々驚きましたが、生徒数が二十名と聞き納得も致しました。しかし会員同士の結束力には感心致し

中学校の『田んぼのスケートリンクを通しての地域との関わり方』、そして須賀川市立東山小学校の『他地区との交流による三者連携づくり』の実践事例は、心温まる思いがしました。

また、棚倉町立棚倉小学校では、『六つの委員会』による活発なPTA活動を実践しており、地域の実情に応じた理想的な事例であったと記憶しております。そして会津坂下町立若宮小学校のゲームによる子どもたちへの影響事例は、子どもたちが『均一化』している事を認識させていただきました。

ました。その後三点について各グループごとに話し合いが持たれました。参加者全員が自分達のPTA活動内容やこれからの研修活動の在り方について活発に意見交換が行われました。このグループ討議は非常に良い企画運営だと思いました。これからの研究大会にも大いに取り入れてもらいたいと思います。父母と教師、そして地域の方々一体となってこれからのPTA活動を盛り上げていってほしいと思います。

最後に第五十三回県P研究大会須賀川大会の開催にあたり、各実行委員の方々並びに関係各位の皆様方に御礼を申し上げます。

現在、子どもたちを取り巻く環境は、複雑かつ悪化していることは、否めない事実になってきています。今大会に参加してあらためて『学校、家庭、地域』との連携を強固なものとしていかねばならないと感じずにはいられませんでした。

最後に、第三分科会の運営にあたり、御尽力を賜りました岩瀬地区PTA連合会の皆様、そしてパネリストとして参加いただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、皆様方の今後の御活躍をご祈念申し上げます。

◆第四分科会 家庭教育(中)

会津若松市P連会長
新城 基行

第四分科会は、「子どもたちの『生きる力』を育む活動を推進しよう」のテーマのもと、四名のパネリストから提言がありました。

平田村立小平中学校Pからは豊かな心と生きる力を育てる家庭や地域の役割として、家庭の中で子どもが責任を持って仕事を分担していることや家族での会話、地域でのコミュニケーションの大切さなどが話され、磐梯町立磐梯中学校Pからは、生きることの感動を實現するための取り組みとして素晴らしい場面に出会えた実践例が、飯館村立飯館中学校Pからは「生きる力」を育てる家庭・地域

◆第五分科会 健全育成

西白河地区P連会長
居川 孝男

『心身ともに健全な子どもを育てる活動を推進しよう』をテーマとした第五分科会は、最初に、会津若松市立日新小PTA会長の佐瀬正行氏の「地域とともに育む子供たち」の提言を頂き、この中で、地域とともに子供たちを育てる為

の役割として、「親の背を見て子どもは育つ」その意味でも大人たちが、子どもの「生きる力」にならなければならないことの実践例が、また県P母親代表の早坂静枝さんからは、よりよい親子関係の在り方と学校・家庭・地域の役割とは？と題して豊かな心を育てるために親子の対話の大切さや「生きる力」を育てる地域や家庭の役割としての食生活について、母親として、参加者三百余名が活発な討議を行いました。

最後にコーディネーターの天栄村立天栄中学校の増子清一校長先生から研究協議の視点に沿ったお話を頂きました。各PTA会員の熱い思いと、がんばっている姿に感動し、得ることの多い分科会でした。

◆第六分科会 養護教育

南会津郡P連会長
貝田 美郎

前後に分かれグループトークキングの手法で話し合いがもたれ、各グループに司会、記録者が事前に決められており話し合いはスムーズに保たれたが、各班とも活発な意見が出たために討議時間が少なくやや物足りなく感じた会員もいた

第六分科会、『特別な支援を必要とする人々との交流を通し豊かな心を育成しよう。』のテーマのもと須賀川市産業会館において、会員百五十名の参加をいただき開催されました。

二本松市立安達太良小学校が「特別な支援を必要とする子ども達と、共に学び共に生きる交流活動の推進」、白河市立白河第三小学校が「養護学級あおぞら・わかくさの子どもたちを見つめ直して」、南会津郡田島町立荒海中学校が「共生の基盤づくりに向けて」とし、実践事例をもとにすばらしい提言がなされました。

ようだ。この中で、各地の取り組み「あいさつ運動」「登下校時に危険箇所へ保護者が立つ」「花いっぱい運動」等、私が参加した班では発表された。その後、インターネット及びケータイ電話の問題に移ったが、この対策には今後充

され充実した分科会になったのではないかと思います。今回、提言の視点にそって、「交流」をするこ

とにより「活動」が活性化し、更には、「意識」の向上に繋がると、三視点が、我々にとって不可欠なことで再認識いたしました。

最後に、第六分科会の運営にあたり、須賀川市立柏城小学校、鏡石町立第二小学校、岩瀬村立白江小学校、県立須賀川養護学校の校長先生はじめ職員の皆様、各PTA会長はじめ保護者の皆様方のご尽力に感謝申し上げます



分な検討が必要であると感じられた。最後に助言者のアドバイスを頂いて終了したが、内容が多岐にわたる分、時間配分の配慮が必要だったように思われたが充実した研修であった。ともに、皆様方の今後のご活躍を
ご祈念申し上げます。

晴れの表彰 おめでとう ございます

◆文部科学大臣表彰

- 白河市立白河第三小学校父母と教師の会
- いわき市立泉小学校PTA

◆日本PTA全国評議会会長表彰

- 二本松市立二本松北小学校父母と教師の会
- 石川町立石川小学校PTA
- 相馬市立中村第一小学校父母と教師の会

〈個人表彰〉

- 林 憲一 (県P連前会長)
- 只野 義和 (県P連前副会長)
- 春日 和光 (前県P連理事・日P評議員)
- 塩田 米子 (前県P連理事・日P評議員)
- 手島まり子 (県P連前理事)
- 小松 榮 (県P連事務局長)

◆東北PTA連絡協議会会長表彰

〈感謝状〉

- 林 憲一 (県P連前会長)
- 〈団体表彰〉
- 二本松市立二本松第三中学校PTA

北海道大雪圏大会 レポート

福島市P連母親委員
村島 勤 子

第五十二回日本PTA全国研究大会北海道大雪圏大会が、八月二十七、二十八日の両日旭川市を中心とした「カムイミンタラ」(神々の遊ぶ庭)の地で「厳しく優しい大地に抱かれ 共に学び共に育つPTA」を大会スローガンに開催されました。

私は特別二分科会「自然環境保護と食育」に参加させていただきました。北海道教育大学教授の小澤治夫先生の「最近の子どもの生活と健康・体力における問題と今後の課題」の基調講演は、大学教授という肩書きからは想像できないバイタリテイあふれる雰囲気のある先生のお話で、その内容は勿論のこと、その話し方に会場全体が引きこまれる様でした。

食生活上の問題点、体の変調と通学意欲、生活の変化と心の安定、生活習慣と学業成績・体力・健康との関連の四点から、子どもが持つ可能性を伸ばすために生活習慣がきわめて重要で

あり、適切な生活が基礎にあつてこそ学力や体力の向上、あるいは気力の充実が見込まれるということをお聞きしました。

将来を担う子どもたちのために今、何をすべきなのか考えさせられ、子どもを取り巻く、食生活を含む生活習慣を見直す必要があること、それは、早急に皆で考えなければならぬということを感じました。私にとって実り多い大会でした。

最後に、とても素晴らしい大会に参加させていただいたことに感謝しますと共に、開催地関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。



県P連旗引渡し

むつ大会レポート

郡山市P連会長
宮本 孝

平成十六年九月十一日・十二日に行われました(社)日本PTA全国協議会第三十六回東北ブロック研究大会むつ大会に、第六分科会のパネリストとして参加してまいりました。その中で感じた事をご報告致します。

私たちが郡山市の連合会では、郡山が平成十八年度に東北大会の会場になる予定なので、大会運営の方がとても気になっていました。パネリストということで、前日のレセプションから参加させていただきましたが、一日目の交流会も含めて、そのもてなしの心に感激しました。とにかくアトラクションが多く、豪華で、皆さんが心をひとつにして一生懸命演じており、とても真似が出来るところではないと思われました。会場の移動や、宿泊等で多少の不便さを感じていましたが、それも帳消しになるくらいの心遣いを感じました。

分科会は、事前の打ち合



須賀川大会風景

わが十分でできたため、お互いの意見を尊重でき、パネリストの特性が生かされた意見交換ができたと思います(自分以外は)。ただ、やはり感じた事は、家庭教育においても学校においても、道徳教育をしつかりしないと、とんでもない国になってしまうという危機感です。少子化のことなども考えると、子ども達の未来が明るいとは到底言えません。今、思いを共にするわたしたちが、積極的に世の中を変えていこうという意識をもつて、忙しい中にも頑張っているせつかくのPTA活動を、更に有意義なものにしていかなければいけないと強く感じます。

○東和町立木幡第一小学校 P T A
 ○船引町立今泉小学校父母と教師の会

○三春町立岩江中学校父母と教師の会

○原町市立原町第一小学校父母と先生の会

○いわき市立泉中学校 P T A
 〈個人表彰〉

○高原 栄征 (県 P 連前副会長)

○貝田 美郎 (県 P 連前副会長・日 P 評議員)

○石井 昭 (県 P 連前総務部長)

○高倉 胤尚 (県 P 連前理事)

○田部 義康 (県 P 連前理事)

○井上まゆみ (県 P 連前理事)

◆福島県 P T A 連合会会長表彰

〈感謝状〉

○林 憲一前会長他三十名

〈団体表彰〉

○福島市立矢野目小学校父母と教師の会他三十二団体

〈個人表彰〉

○霞 正人 (福島) 他百三名

※全名簿は、県 P 研究大会須賀川大会要項に記載してありますので参照して下さい。

第十回県 P 連郡市 P 母親代表者懇談会

会津若松市 P 連母親委員

山田 典子

各郡市 P 連より、約四十名のご参加を頂き開催された今年度の母親代表者懇談会は、昨年度に引き続き、社会教育主事の瀬谷真理子先生を講師にお迎えして、午前は、「これからの家庭教育に求められること」～父親の家庭教育参加と心を育むかわり方のすすめ～という題でご講話を頂き、午後は、小・中部会に分かれて、先生のお

話を基にバズ・セッション方式で意見を交換しました。

先生の講話からは、少子化、核家族化が進んでいる今、子供達は群れて遊ぶ事ができず、社会性、人間性が育ちにくくなっている。その様な中での子育ては、母親だけでは難しく、父親や地域の人々とのかわりが必要だという事。又、父親の企画力というものは、とてもすばらしいので、家庭の中ではもちろん、子供会、スポ少等でもっと発揮してほしいという事など、子供達の豊かな成長のため

に必要なおとなの、特に父親の良いかかわり方についてお話頂きました。また思春期の性の現状と課題についても話して頂き、性非行を防ぐには、個人でやるのは難しい時代なので、親同士のネットワークが必要になり、そこで現状を

すばやくキャッチし対応しなければならぬという事。又、P T A の研修等にもっと性の問題を取り上げて、皆で勉強してほしいという事などお話頂きました。午後は、「父親の家庭教育への参加を高めるにはどうあればよい

か」というテーマで意見交換し、母親が子供と父親の間で気配りし家庭の中で子供の話題を中心にうまくコミュニケーションができる様にするとよいという考えや、スポ少、部活の送迎や球技大会等、参加しやすい所から始めて、徐々に出席を増やしていくのはどうかなどの考えが出されました。又、「おやじの会」結成の事例も紹介されました。

めまぐるしく社会情勢が変化し、それに伴い様々な問題が起きている今、親として考えなければいけないテーマを、同じ母親という立場にある瀬谷先生にお話を頂き、多くの皆様と意見交換できた事は、大変勉強になりました。

祝 全国 P T A 広報紙コンクール 家庭教育新聞社社長賞を受賞して

会津若松市立第三中学校 P T A

広報担当 植木 信吾

平成十五年度、若松三中広報委員会は佐藤一夫委員長、安藤善徳・八代裕子副委員長を中心に、計十六名の委員で活動し、年三回、会報「大成」を発行しました。平成十五年度は、テーマを「目と

関心 子と P T A にあと一歩」と設定し、編集にあたりました。年度当初に三回の発行の焦点を絞り、特集記事を組みました。第一号は、二年生に焦点をあてて、生徒の学校生活や家庭生活の意識をアンケートで調査・集計し、分析しました。第二号は、三年生の部活動の部長で座談会を実施し、活動を振り返り、後輩に託す想いをまとめ

ました。また、「灯火のつどい」(合唱コンクールを中心にした学校行事)の取材から、全学級の合唱の写真を一面に掲載しました。第三号は、一年生に焦点をあてて、生徒全員の「二年生への抱負」を掲載しました。これらの特集記事は、生徒たちの考えがよく現れていてわかった、と好評でした。

委員会の活動も、回数を重ね、委員の皆さんは、忙しい中でも多く足を運んでくださいました。会は、いつも賑やかで、「あれがいい」、「これがいい」とアイデアを出し合ったり、「はい、次はこ

この度、全国 P T A 広報紙コンクールにおいて、家庭教育新聞社社長賞をいただきました。原康之前校長先生、新城基行 P T A 会長をはじめそれぞれのお立場で原稿を寄せてくださいました皆様と、ご協力いただき支えてくださいました皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

平成17年度県P連行事予定(案)

月	主 な 行 事	
6	評議員会(総会) 小中学校別課題研修会 理事会・常置委員会	10日(金) 24日(金)午前 24日(金)午後
7	役員・総務委会合同会 会報・要覧発行	12日(火)
8	日P研究大会愛知大会 郡市P母親代表研修会	26日(金)・27日(土) 19日(金)
9	東北P北村山大会(山形)	10日(土)・11日(日)
10	理事会・常置委員会 県P研究大会二本松大会	14日(金) 15日(土)・16日(日)
11	県教育長との懇談・要望 県議会各派への要望	日時未定 〃
12	会報発行	
1	理事会・常置委員会	25日(水)
2	評議員会(総会)	24日(金)
3	会報発行	

年末年始の交通事故防止を

「うつくしま 無事故の主役 あなたです」のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

期 間 平成16年12月10日(金)～17年1月7日(金)までの29日間

- 運動の重点
- ①飲酒運転の追放
 - ②夜間の交通事故防止、特に高齢歩行者の事故防止
 - ③シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

- ◆飲酒運転の追放を
酒などを「飲まない」「飲ませない」が基本ですが、保護者としての責任と自覚をもち「飲酒運転の絶無」をお願いします。(飲酒運転検挙件数－H15年4,412人)
 - ◆夜間の交通事故をなくすために
・歩行者……明るい色の服装、反射材を付けるなどの工夫
・ドライバー……スピードを控える、交差点・カーブに注意、早めの点灯など
 - ◆シートベルト・チャイルドシートを必ずつける
シートベルトは命綱であることを再確認してください。
 - ◆運転中の携帯電話はストップ
- 以上4点を中心に、会議で、家族で、具体的に話し合い確認してください。

今年、例年になく災害に見舞われ、台風・地震に遭われました被災地の皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。
中越地震に対する募金活動を本会としても推進しておりますが、依頼の文書が届く以前に取り組まれた単Pが多くあるなど、皆様の被災者に対する思いやりと実践に感謝申し上げます。
本県においても、異常気象、台風の影響を受け、農家の皆様には被害が大きいと聞いています。特に、果樹農家では、りんごに蜜が入らない、日持ちがしないとか、ラフランスの実が赤くなって出荷できない等々で困っておられるようです。
大自然にうち勝てない人間の非力さを改めて実感した年でもありましたが、そこから立ち上がる人間の生き様を、しっかりと子どもたちに語ることも親の務めではないでしょうか。(S・K)

編集後記

お知らせ

日本PTA全国協議会第38回東北ブロック研究大会郡山大会を次のように開催する準備を郡山市P連衷心に進めておりま
す。県P研究大会と併せての開催となります。ご協力宜しく
お願いします。

- 1 期 日 平成18年9月9日(土)・10日(日)
- 2 会 場 ユラックス熱海をメイン会場に開催
- 3 主 催 日本PTA全国協議会、東北PTA連絡協議会
福島県PTA連合会
- 4 主 管 郡山市PTA連合会

安全互助会から

【お知らせ】と【お願い】

- ◆事故(傷害、賠償のいずれも)が発生したら速やかに「事故報告」をFAXでください。
- ◆賠償補償の事故が発生した場合の手続きについて
・学童の休み時間や放課後などの賠償補償事故発生の場合、ケースによっては補償対象となりますので「賠償事故報告書」を「県P連事務局」にFAXで送付してください。(対象の是非を事務局で判断し連絡いたします。)
- ・事故が発生した場合は必ず傷害・賠償の「事故報告書」を「県P連事務局」にFAXしてください。報告書が先です。その後、申請書等の提出となります。報告書用紙がない場合は、「事務取扱い概要」よりコピーしてお願いします。なお、FAX送付の際、送り状を付けなくてそのまま送付ください。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509